

大学の海外展開、ポスト留学生30万人計画を見据えた留学生政策についての 制度・教育改革 WG(平成 30 年 4 月 27 日)における主な意見

大学の海外展開

- 海外キャンパスについて、定員超過の例外措置にすることは、国内と海外でダブルスタンダードを作るといことになるがいかがなものか。大手私学、特に都内 23 区の手私学は、定員抑制を求められているので、海外に進出して活路を見出すということになるのではないか。
- 大学の海外展開については、4 年制大学だけではなく、短期大学も含めて検討していくべきではないか。
- 海外キャンパスの設置といった攻めにでないと留学生の獲得は困難。現在、2+2 でダブルディグリーを行っているが、それ以上の海外展開を行うためには、より具体的な提案が必要。制度改革も視野に入れた検討が必要ではないか。
- 大学の国際化や、留学生の増加定着において、規制緩和や制度改革の取組を行うことは大切。この領域は必ずしもこれまで戦略的に取り組みきれていなかった領域であると考えており、成果から逆算したときの総合的な戦略を打ち立てて臨んでいく必要があるのではないか。

ポスト留学生 30 万人計画を見据えた留学生政策

- 各大学は留学生に対する入試を工夫しながら柔軟化しているが、日本語が大きな壁となっている。また、原則、日本に来ないと受験できない。入試の観点から国際化についてどのように進めていくか、議論が必要ではないか。
- 留学生に対する経済支援についても考える必要があるのではないか。
- 留学生の宿舎の問題については、関係省庁、地方自治体との連携等を行わないと解決できないのではないか。